

保育所等現況調査
報告書

1. 調査の概要について

(1) 調査の目的

保育所及び認定こども園の職員に係る現況を調査し、今後の子育て支援に関する施策を検討するための基礎資料を得ることを目的として、調査を実施した。

(2) 調査事項

- 1 施設の概要について
- 2 職員等の状況について
- 3 保育士の退職状況について
- 4 保育士の休暇等について
- 5 保育士の採用状況について
- 6 保育士の給与について

(3) 調査の範囲

千葉県内の保育所及び認定こども園(1,228施設)

(4) 調査の期日

令和元年10月1日現在

(5) 調査方法

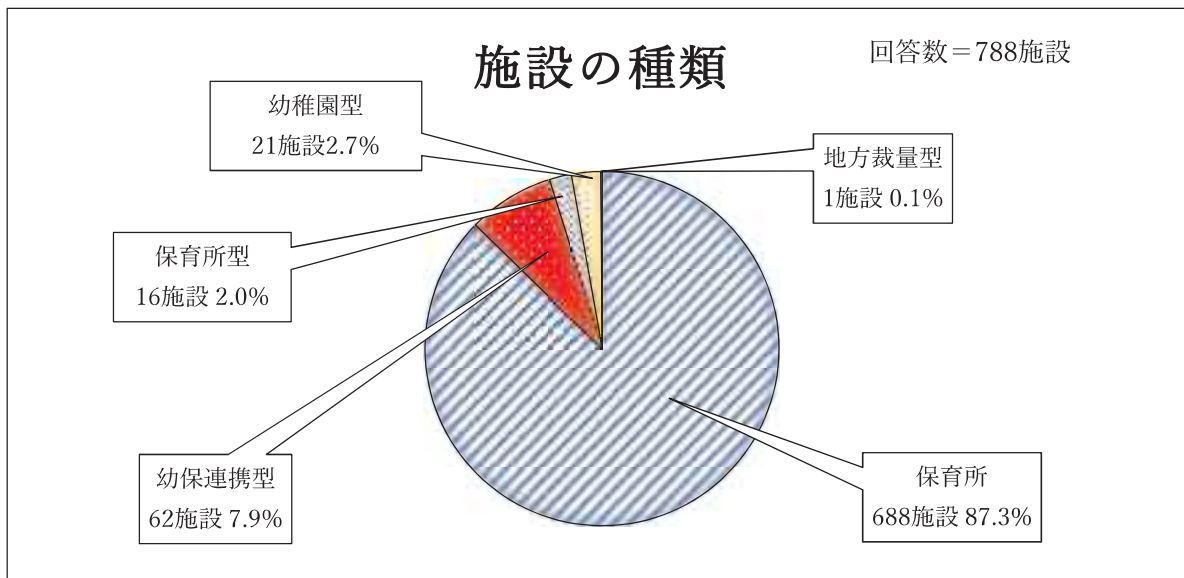
県から、市町村を經由して(3)の施設に調査票を配布、市町村経由で回答を回収した。

(6) 回答数及び回答率

保育所	688 施設	(65%)
認定こども園	100 施設	(56%)
計	788 施設	(64%)

2. 施設の概要について

(1) 施設の種類



【参考】

平成 31 年 4 月 1 日現在県内施設数

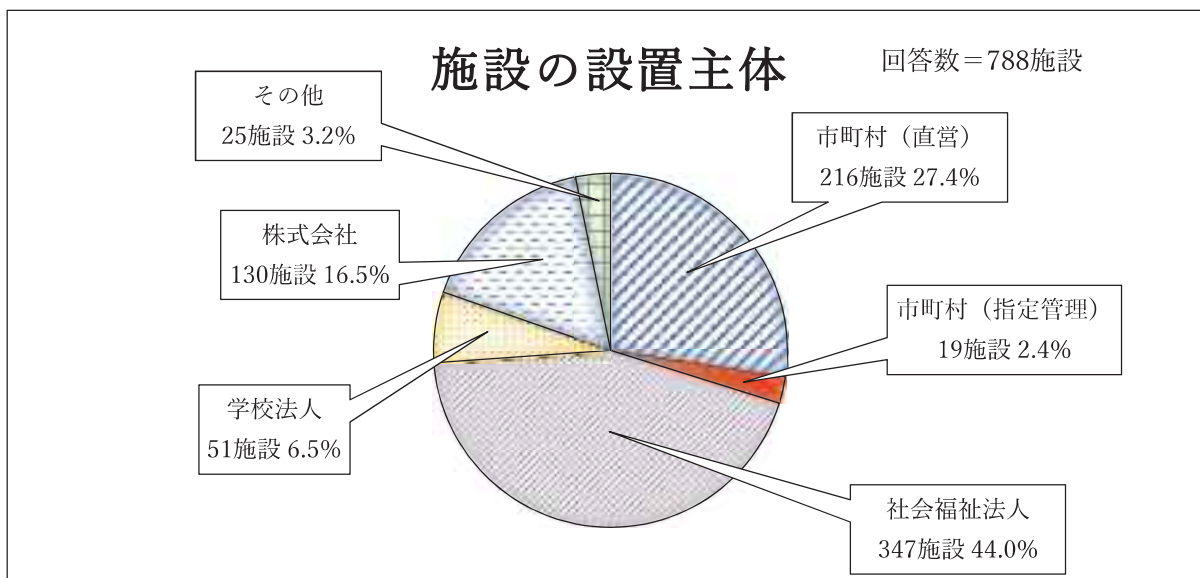
保育所 1050 施設 (85.5%) 保育所型認定こども園 17 施設 (1.4%)、

幼保連携型認定こども園 96 施設 (7.8%) 幼稚園型認定こども園 62 施設 (5.0%)、

地方裁量型認定こども園 3 施設 (0.2%)

※端数処理の関係で、0.1%切り捨て。

(2) 施設の設置主体



【参考】

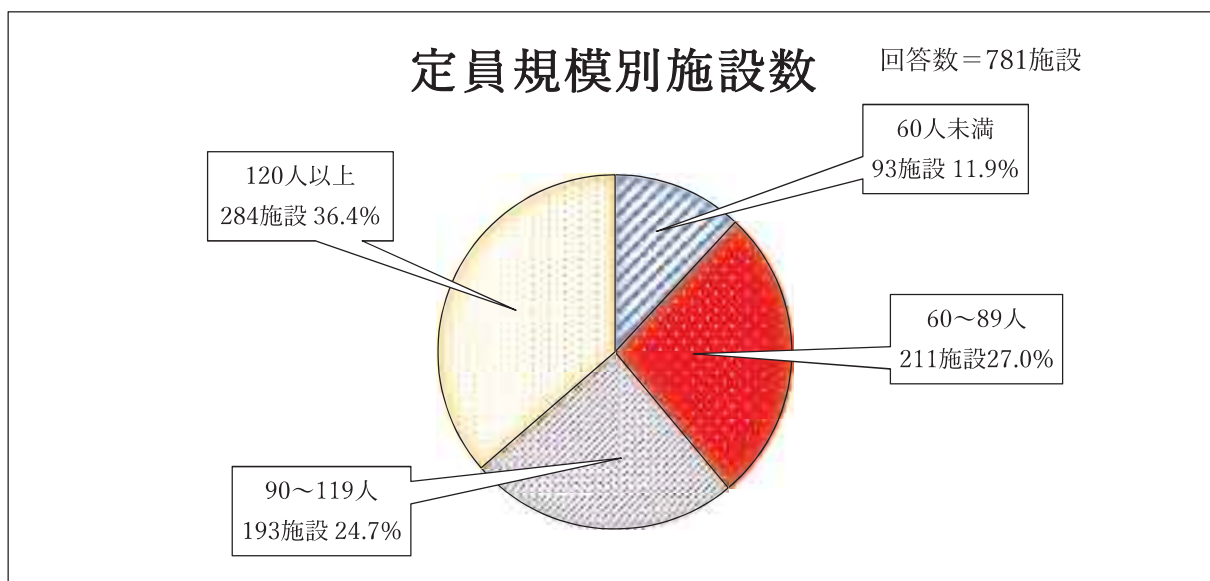
平成 31 年 4 月 1 日現在県内施設数

公設公営 383 施設 (31.2%) 公設民営 22 施設 (1.8%)

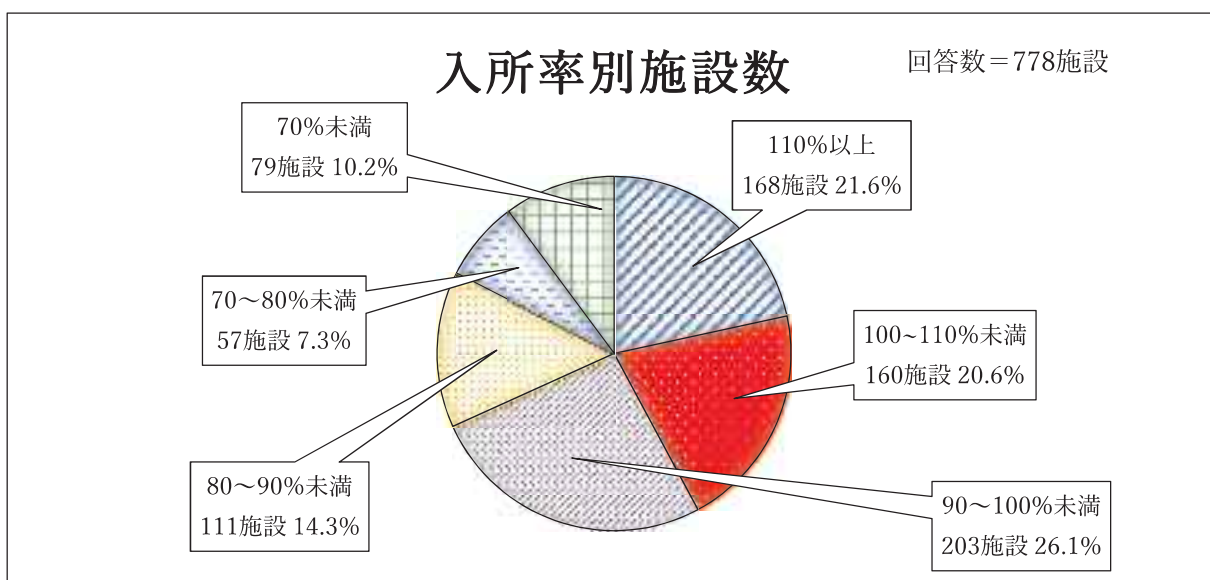
社会福祉法人 462 施設 (37.6%) 学校法人 105 施設 (8.6%) 株式会社 214 施設 (17.4%)

その他 42 施設 (3.4%)

(3) 定員規模別



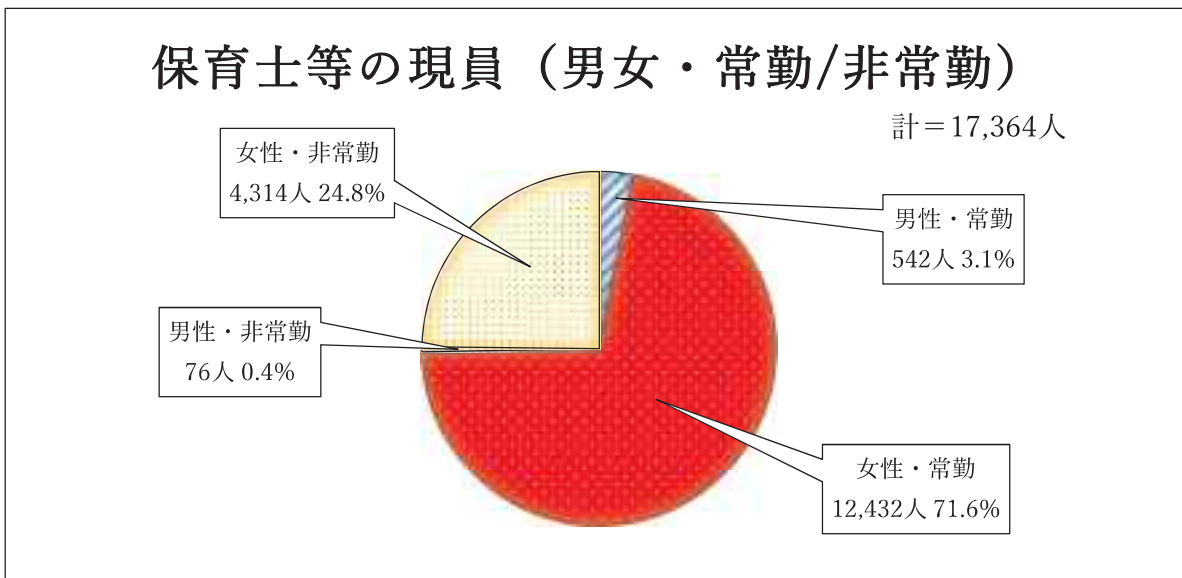
(4) 入所率別施設数



※端数処理の関係で、0.1%切り捨て。

2. 保育士等の状況

(1) 保育士等の現員（男女・常勤／非常勤）

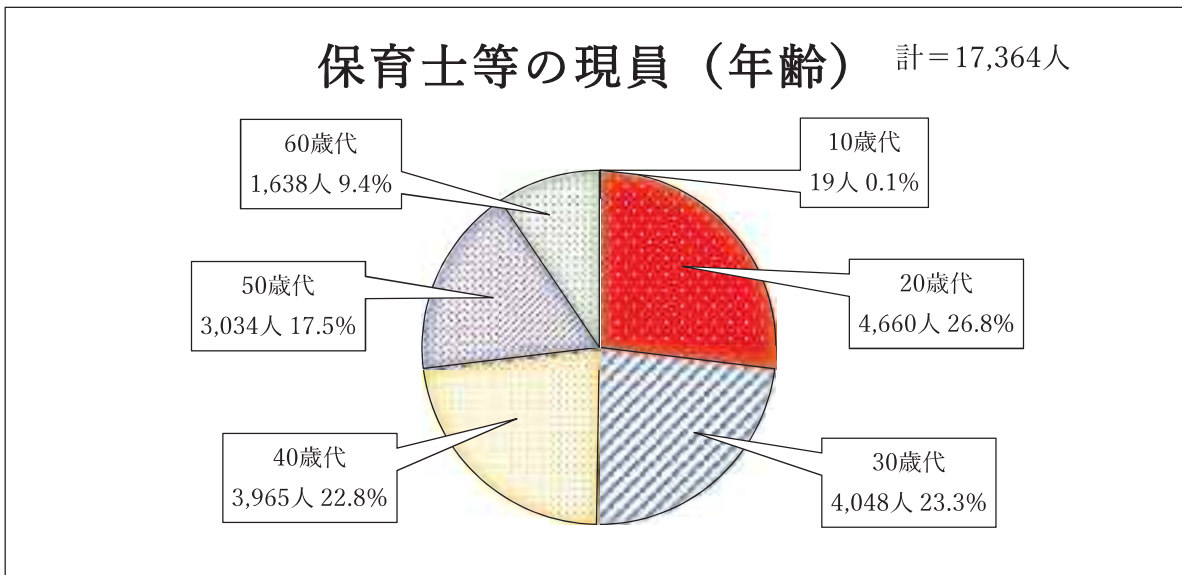


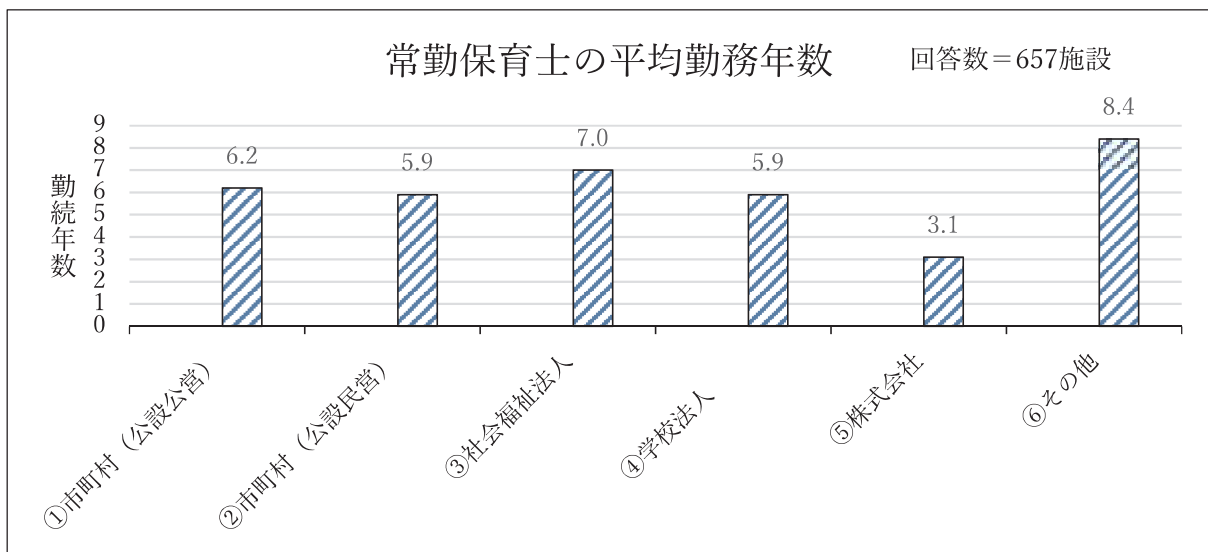
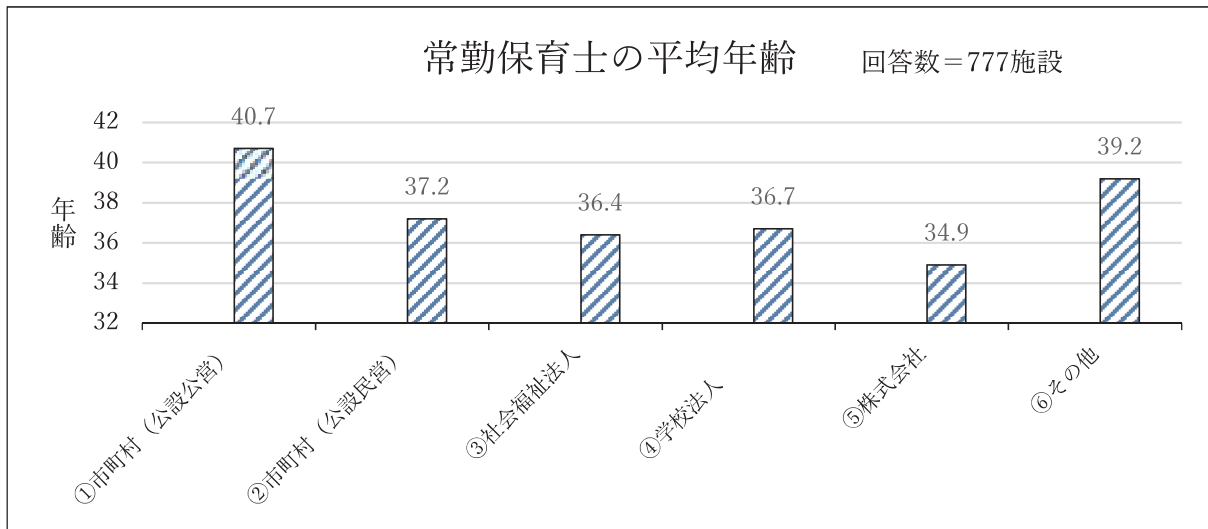
常勤とは雇用形態にかかわらず、一日6時間以上かつ月20日以上勤務する保育士（又は保育教諭）であり、全体の約75%を占めている。

また、全体としての男女比は男性 3.5%、女性 96.4%である。

※端数処理の関係で、0.1%切り捨て。

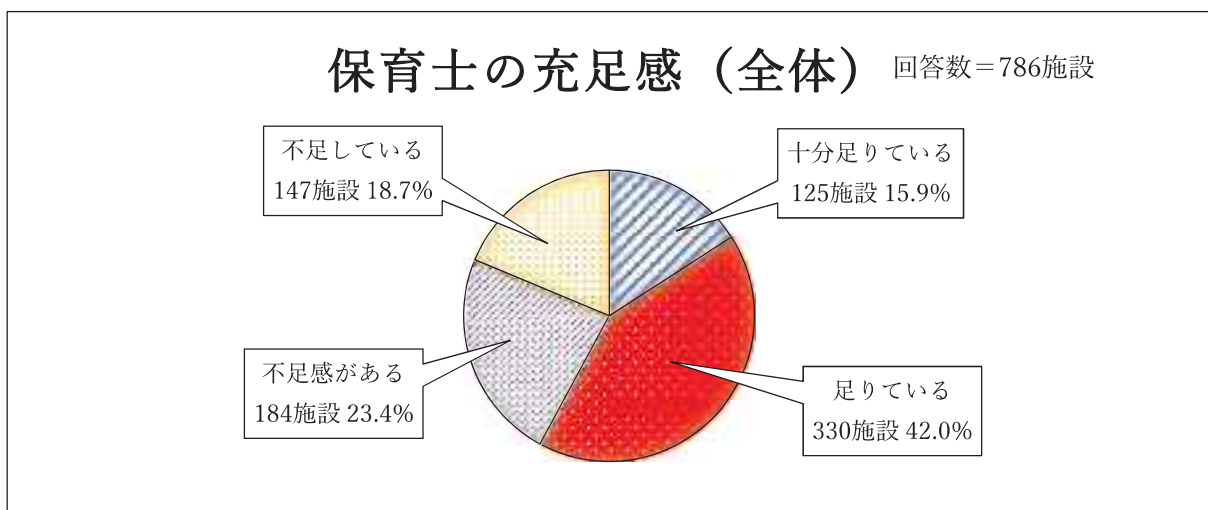
(2) 保育士等の現員（年齢別）/平均年齢/平均勤務年数





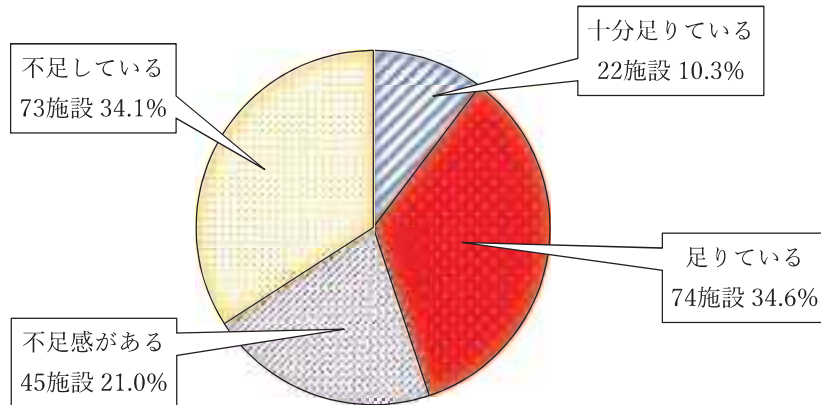
年代別では20代が最も多く27%、30代、40代が23%であった。「常勤保育士の平均年齢」「平均勤務年数」ともに、設置・経営主体による差が顕著である。

(3) 保育士の充足感



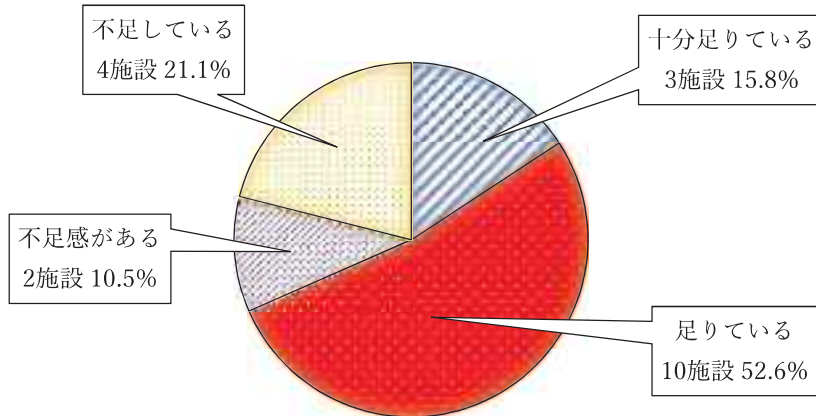
保育士の充足感（公立直営）

回答数=214施設



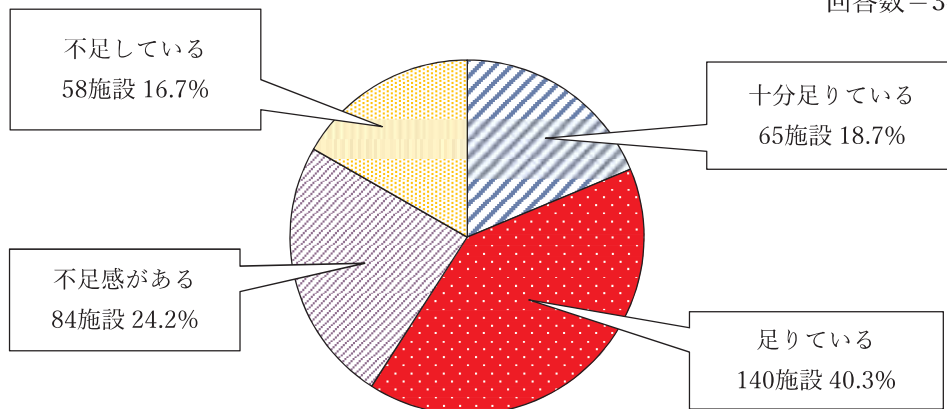
保育士の充足感（公設民営）

回答数=19施設

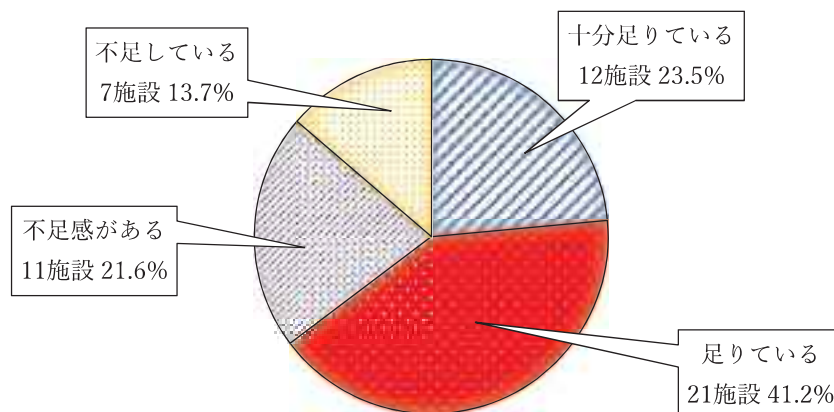


保育士の充足感（社会福祉法人）

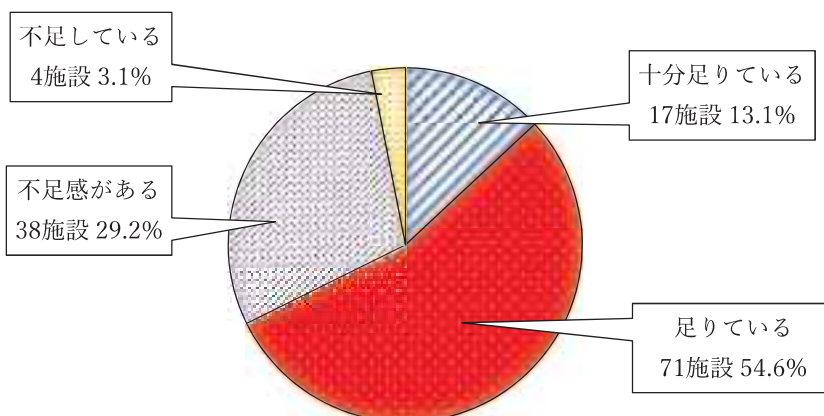
回答数=347施設



保育士の充足感（学校法人） 回答数=51施設



保育士の充足感（株式会社） 回答数=130施設

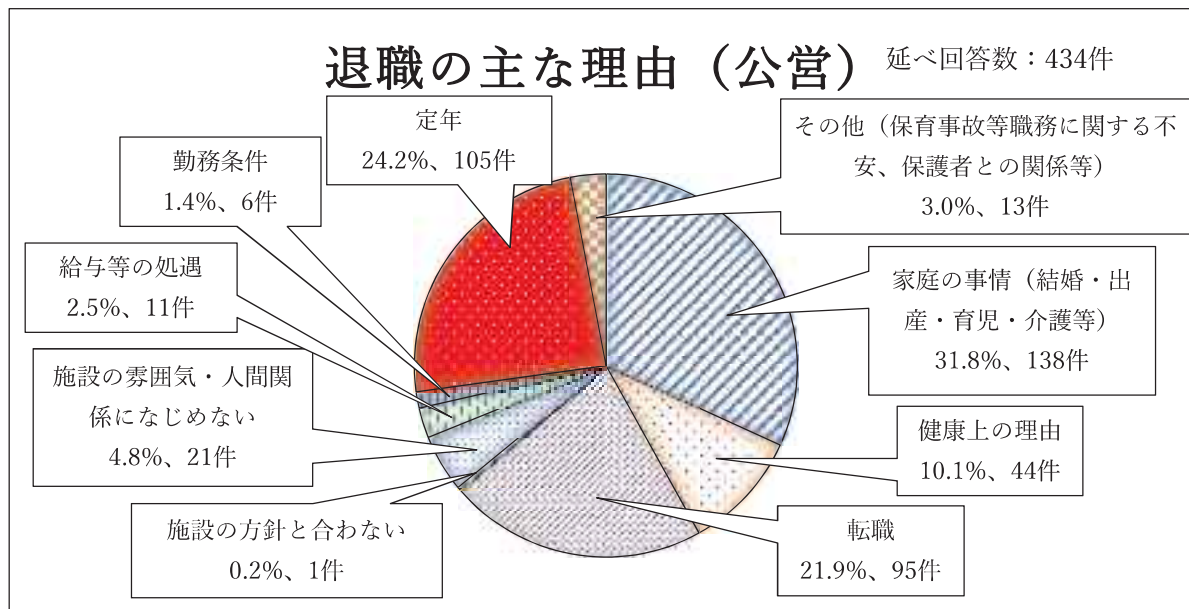


「現在受け入れている園児の保育又は利用定員どおり受け入れるために必要な人数が確保されていると思いますか。」の設問に対する回答であるため充足感として整理した。

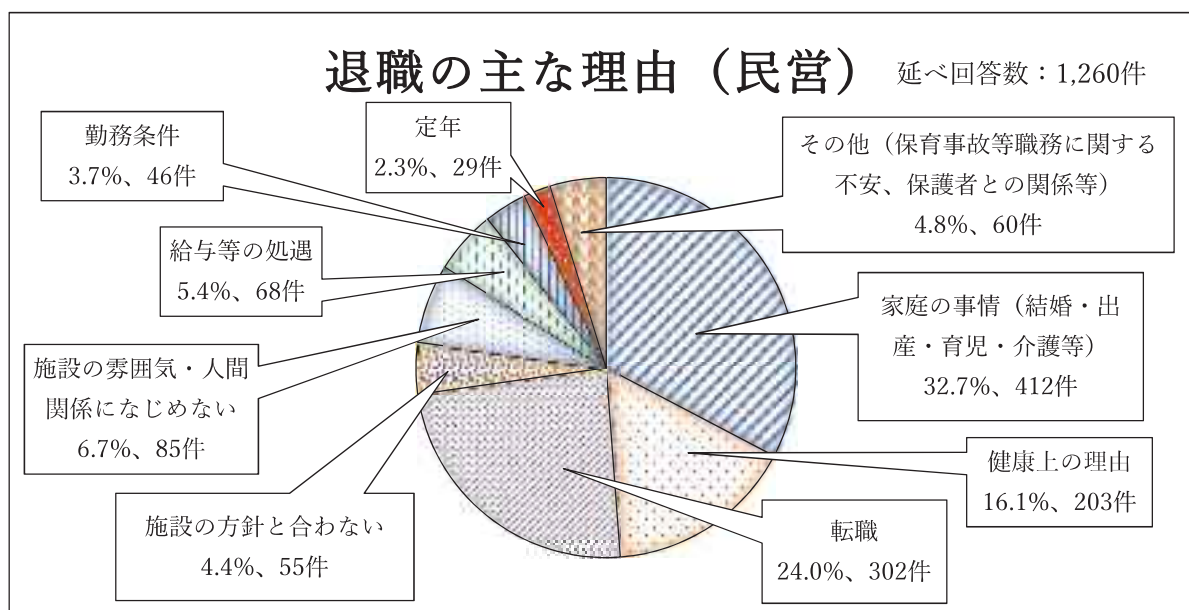
全体的に、「十分足りている」「足りている」との回答が一番多く約6割となっている。「十分足りている」との回答は学校法人、社会福祉法人で多い一方、公設・公営では両者をあわせても45%と半数以上の施設が不足感を抱いている。

3. 保育士の退職状況

(1) 公営施設の退職理由

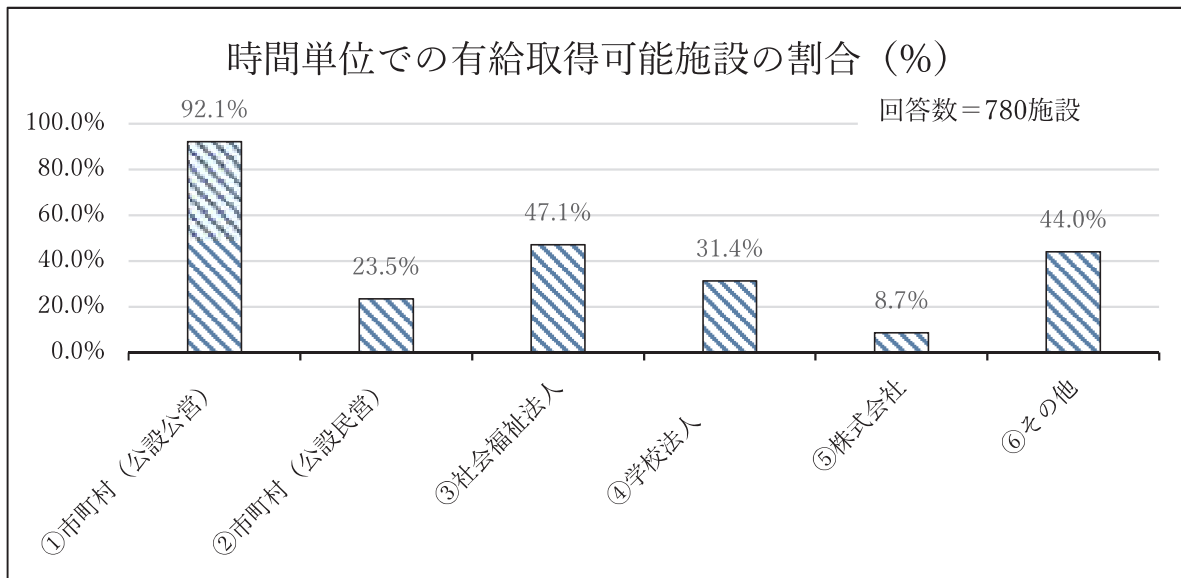


(2) 民営施設の退職理由



退職の主な理由としては、「家庭の事情」が一番多いが、「定年」については公営24.2%、民営2.3%と差が顕著である。

4. 保育士の休暇等

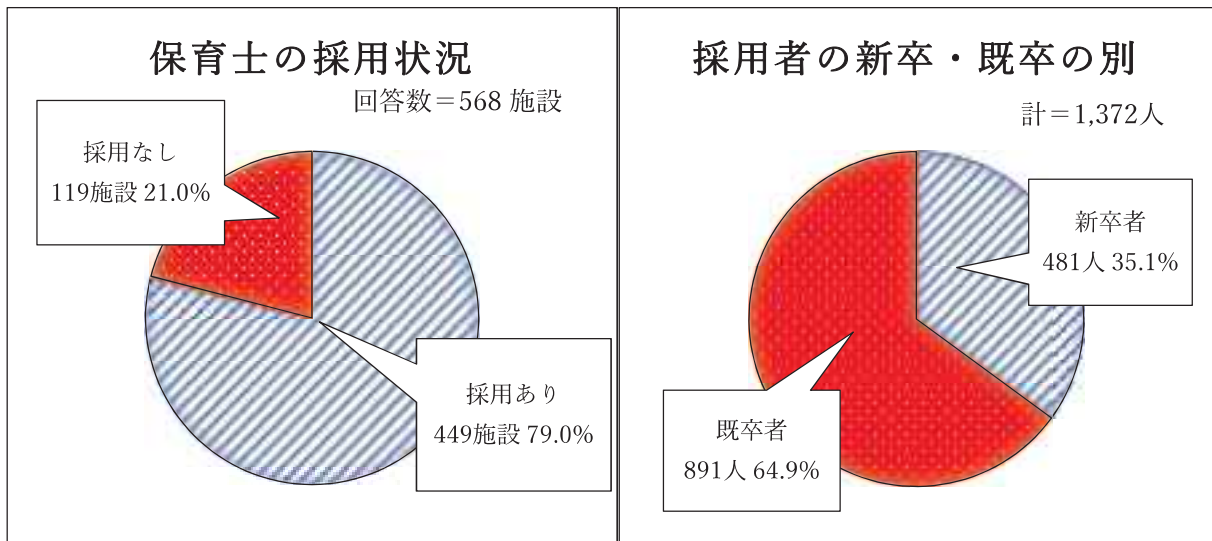


休暇の付与については労働基準法のルールそのものが、施設の状況に応じた回答となっているものとみられる。

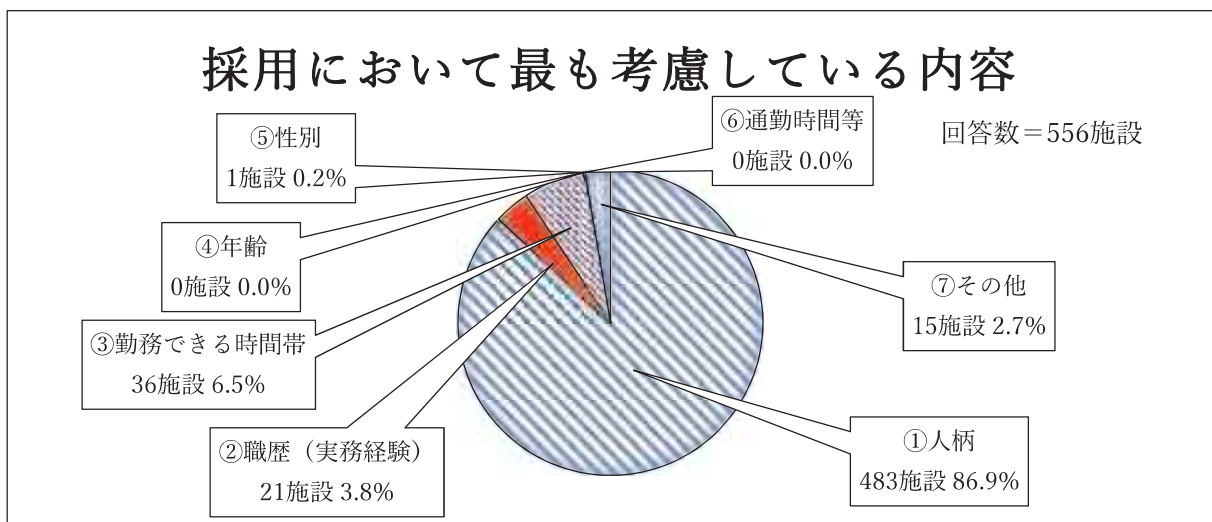
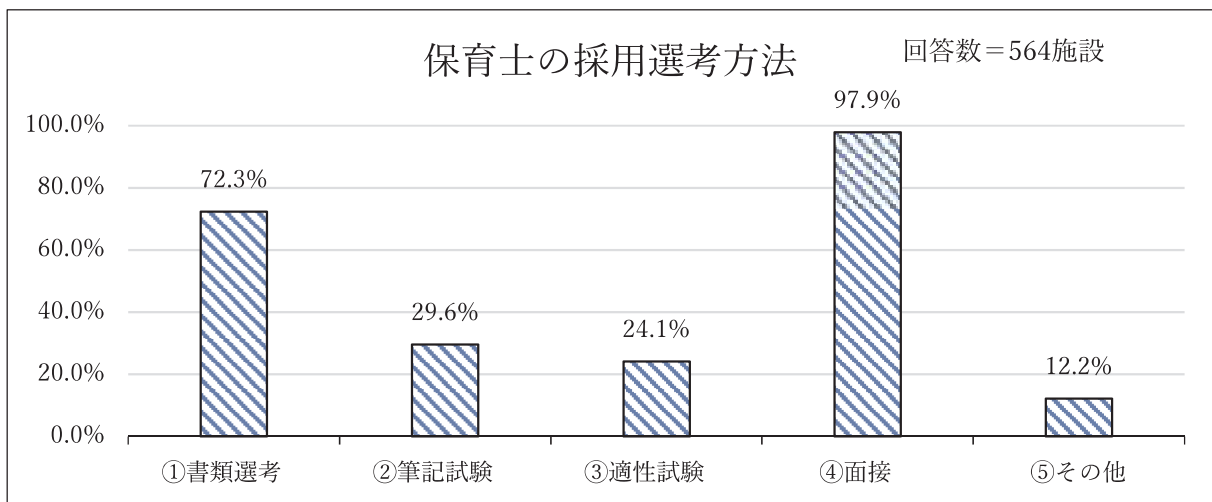
その中、時間単位の取得の扱いは、設置・経営主体による差が有意に出ている。

5. 保育士の採用状況

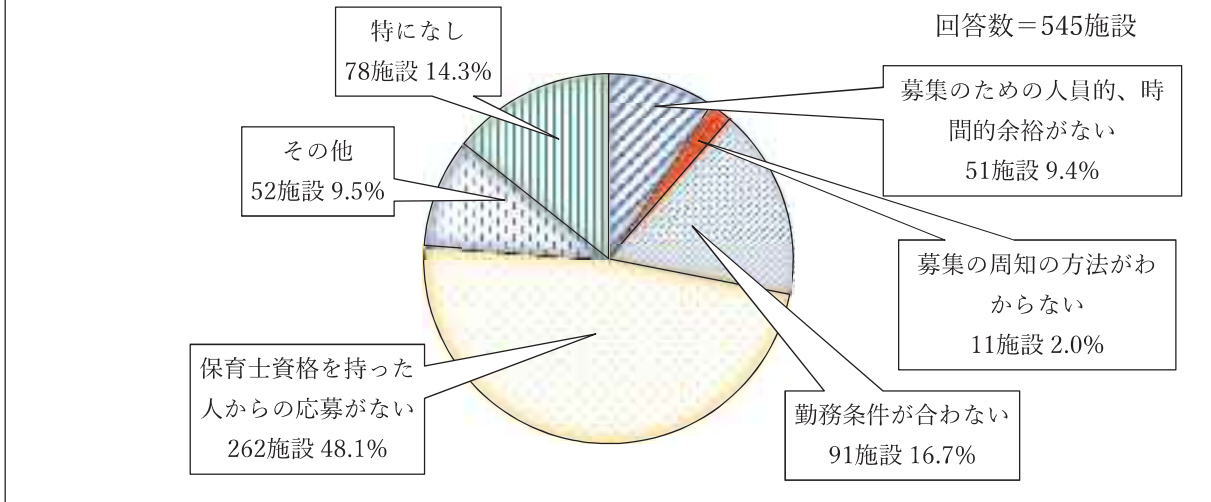
(1) 採用状況



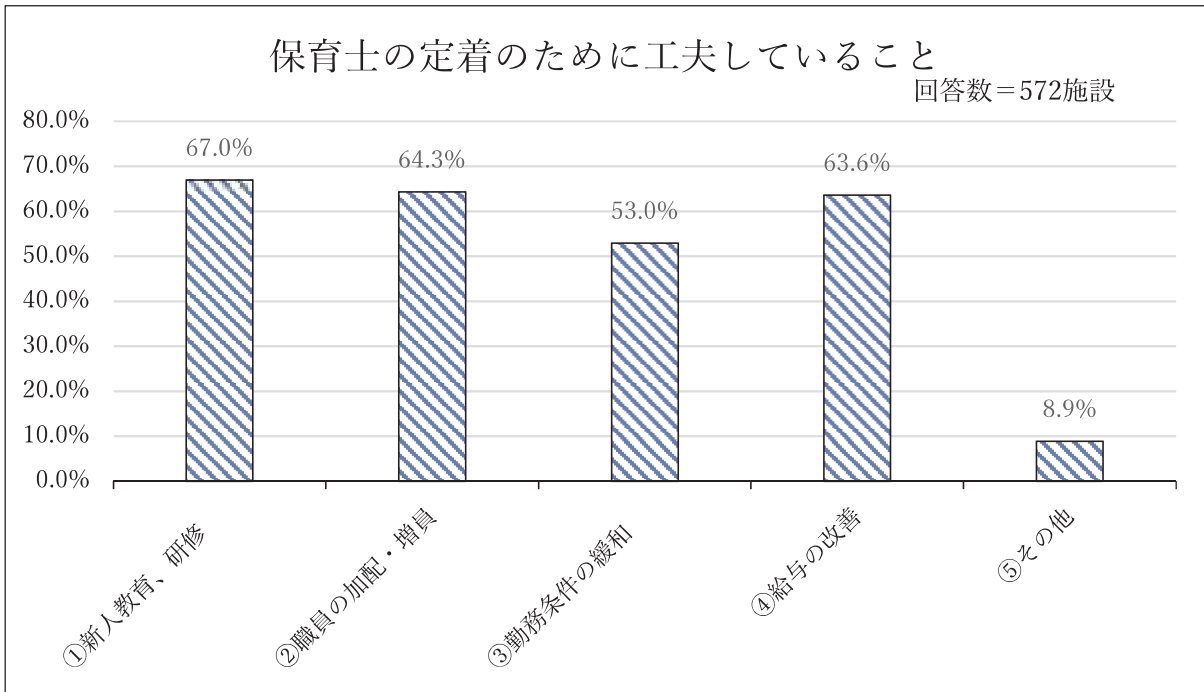
(2) 選考にあたって



保育士の採用を行う上で、最も苦慮していること



(3) 定着のための工夫



採用にあたっては、面接で、人柄を最優先に選考しているとの結果であった。そもそも、保育士の有資格者からの応募がないところで苦慮していることから、施設からすると就業を希望する保育士が不足している現状がうかがえる。また、定着の取組としては、「新人教育、研修」「職員の加配・増員」「給与の改善」について、同程度の割合で実施されている。

6. 保育士の給与

※②公設民営 ③社会福祉法人 ④学校法人 ⑤株式会社 ⑥その他 N:回答数(特異値等除外)

(1) 常勤保育士の初任給

短大・専門学校新卒

計523施設

給与	②施設数	割合	③施設数	割合	④施設数	割合	⑤施設数	割合	⑥施設数	割合
180,000円未満	12	70.6%	156	47.6%	19	38.8%	36	34.3%	13	54.2%
180,000円～190,000円	3	17.6%	73	22.3%	10	20.4%	15	14.3%	0	0.0%
190,000円～200,000円	0	0.0%	47	14.3%	7	14.3%	15	14.3%	2	8.3%
200,000円以上	2	11.8%	52	15.9%	13	26.5%	39	37.1%	9	37.5%
N=	17	100%	328	100%	49	100%	105	100%	24	100%

補助金による上乗せ

計518施設

	②施設数	割合	③施設数	割合	④施設数	割合	⑤施設数	割合	⑥施設数	割合
10,000円未満	3	17.6%	24	7.4%	3	6.0%	13	12.7%	3	12.5%
10,000円～20,000円	0	0.0%	23	7.1%	1	2.0%	6	5.9%	3	12.5%
20,000円～30,000円	5	29.4%	76	23.4%	11	22.0%	29	28.4%	5	20.8%
30,000円以上	9	52.9%	202	62.2%	35	70.0%	54	52.9%	13	54.2%
N=	17	100%	325	100%	50	100%	102	100%	24	100%

(2) 常勤保育士の基本給の平均(手当を含まない)

計490施設

給与	②施設数	割合	③施設数	割合	④施設数	割合	⑤施設数	割合	⑥施設数	割合
180,000円未満	1	6.3%	47	15.2%	8	16.0%	22	23.9%	5	21.7%
180,000円～200,000円	8	50.0%	112	36.2%	14	28.0%	28	30.4%	4	17.4%
200,000円～220,000円	3	18.8%	92	29.8%	17	34.0%	21	22.8%	8	34.8%
220,000円～240,000円	3	18.8%	35	11.3%	6	12.0%	10	10.9%	5	21.7%
240,000円～260,000円	1	6.3%	16	5.2%	2	4.0%	7	7.6%	1	4.3%
260,000円～280,000円	0	0.0%	5	1.6%	1	2.0%	3	3.3%	0	0.0%
280,000円～300,000円	0	0.0%	1	0.3%	2	4.0%	0	0.0%	0	0.0%
300,000円以上	0	0.0%	1	0.3%	0	0.0%	1	1.1%	0	0.0%
N=	16	100%	309	100%	50	100%	92	100%	23	100%

(3) 常勤保育士の平均給与(手当含む)

計473施設

給与	②施設数	割合	③施設数	割合	④施設数	割合	⑤施設数	割合	⑥施設数	割合
180,000円未満	0	0.0%	3	1.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
180,000円～200,000円	0	0.0%	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
200,000円～220,000円	1	6.3%	9	3.0%	1	2.1%	3	3.6%	2	8.3%
220,000円～240,000円	1	6.3%	22	7.3%	6	12.5%	5	6.0%	1	4.2%
240,000円～260,000円	1	6.3%	32	10.6%	6	12.5%	24	28.9%	5	20.8%
260,000円～280,000円	4	25.0%	34	11.3%	10	20.8%	18	21.7%	5	20.8%
280,000円～300,000円	3	18.8%	37	12.3%	4	8.3%	15	18.1%	2	8.3%
300,000円～320,000円	1	6.3%	41	13.6%	5	10.4%	8	9.6%	2	8.3%
320,000円～340,000円	3	18.8%	34	11.3%	4	8.3%	7	8.4%	1	4.2%
340,000円～360,000円	2	12.5%	23	7.6%	3	6.3%	3	3.6%	3	12.5%
360,000円以上	0	0.0%	66	21.9%	9	18.8%	0	0.0%	3	12.5%
N=	16	100%	302	100%	48	100%	83	100%	24	100%

(4) 各種手当について

手当		施設数	割合
① 処遇改善手当		540	97.8%
② 通勤手当		545	98.7%
③ 住宅手当		380	68.8%
④ 扶養手当		310	56.2%
⑤ 時間外手当・休日手当		507	91.8%
⑥ 夜間勤務手当		87	15.8%
⑦ 資格手当		260	47.1%
⑧ その他		119	21.6%
	N=	552	-

(5) 賞与について

回数		施設数	割合
0回		4	0.7%
1回		6	1.1%
2回		410	73.7%
3回以上		136	24.5%
	N=	556	100%

短大・専門学校新卒者の初任給については、全ての設置主体で、18万円未満の割合が最も高くなっているが、社会福祉法人及び学校法人では2割を超える施設が、18万円～19万円の区分で設定している。

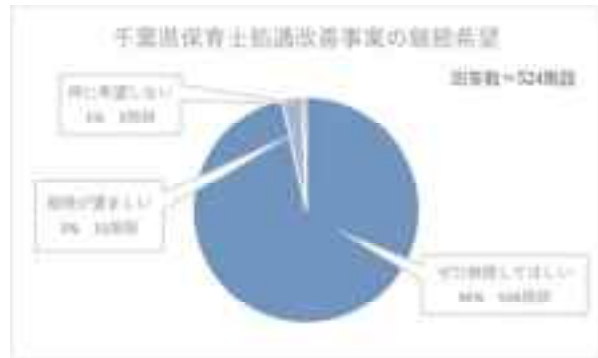
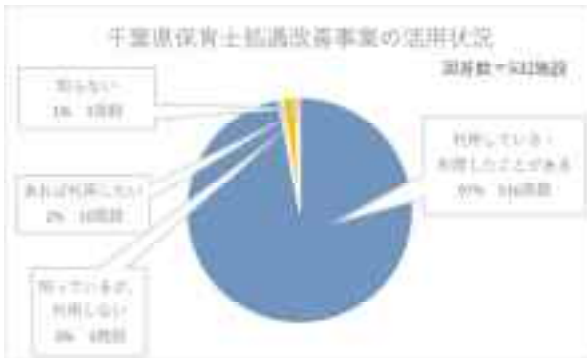
常勤保育士の平均基本給においても、設置・経営主体による差が見受けられるが、手当を含むと設置・経営主体による差が拡大、また学校法人、社会福祉法人に顕著であるが、同じ設置・経営主体内の施設毎の差も大きい。

各種手当について、処遇改善手当及び通勤手当は、ほぼ全ての施設で支給されており、住宅手当も約7割の施設が制度を有している。また、約半数の施設が資格手当を支給している。

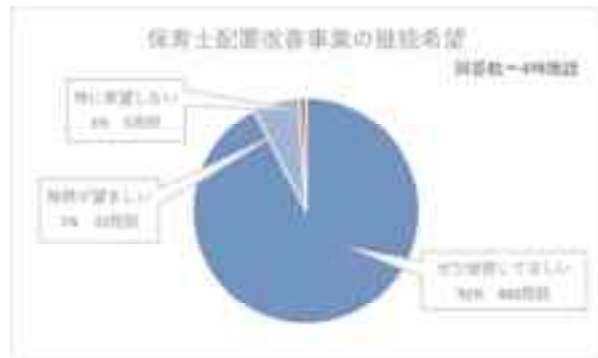
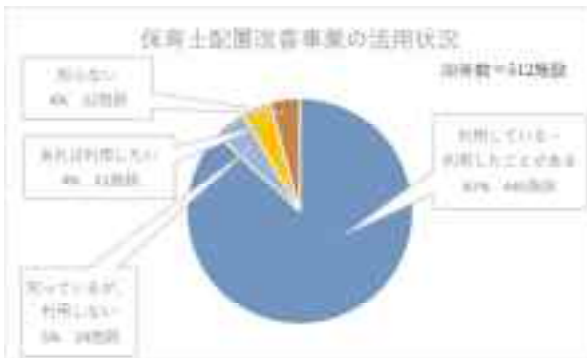
賞与は、年2回が最も多く73.7%だが、約1/4の施設は3回以上支給していた。

7. 制度の活用と継続希望

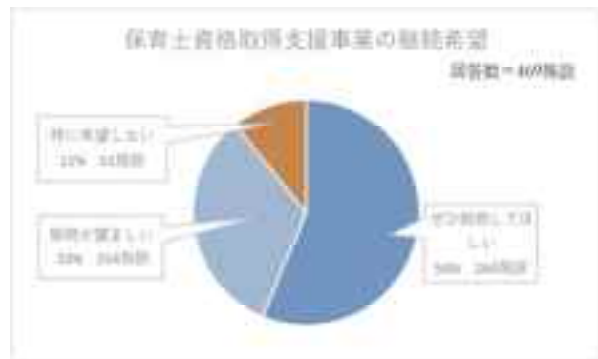
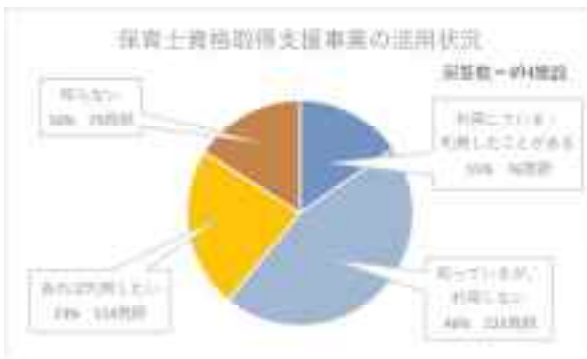
(1) 千葉県保育士処遇改善事業【県独自事業】



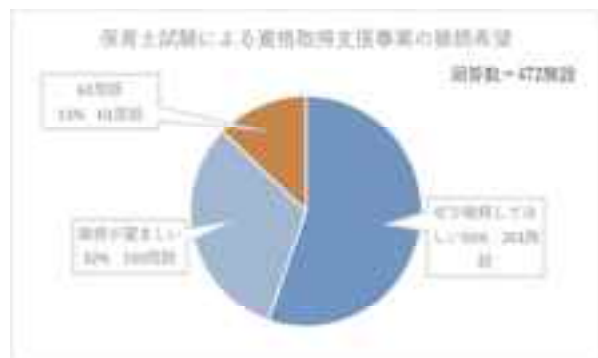
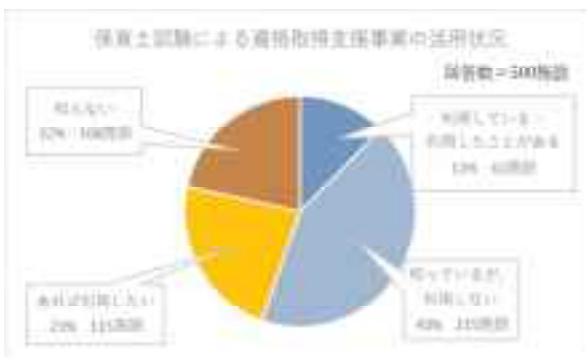
(2) 保育士配置改善事業【県独自事業】



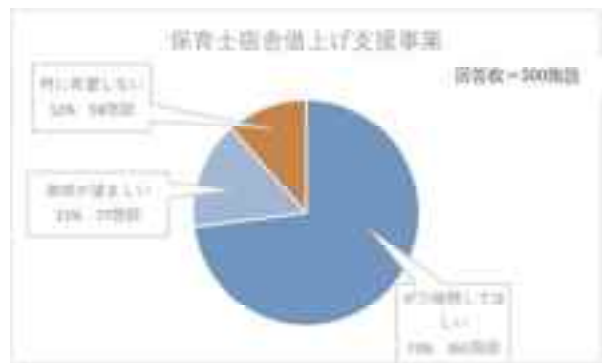
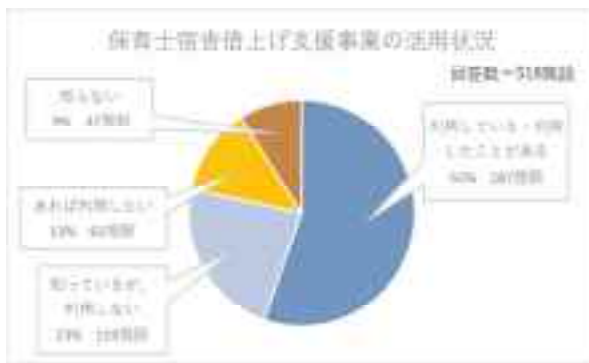
(3) 保育士資格取得支援事業



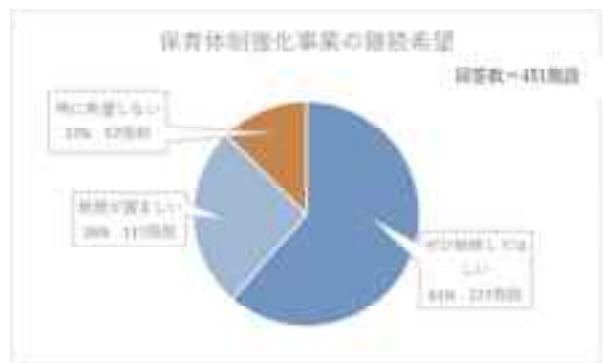
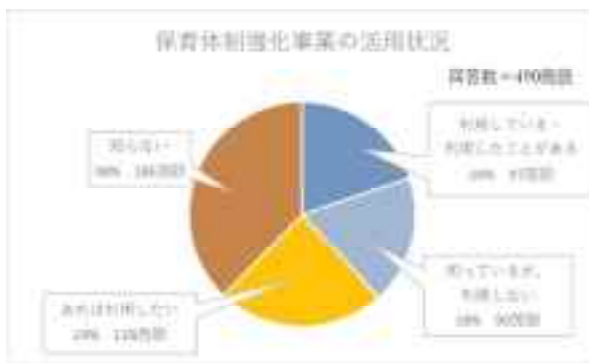
(4) 保育士試験による資格取得支援事業



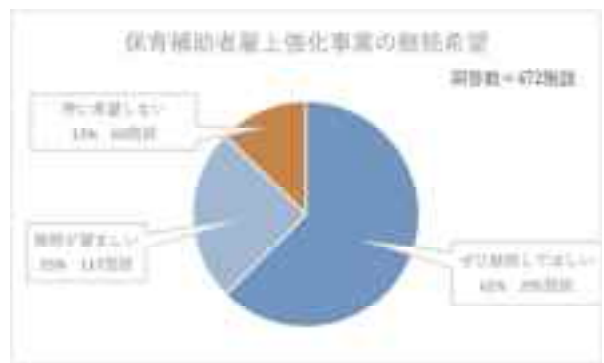
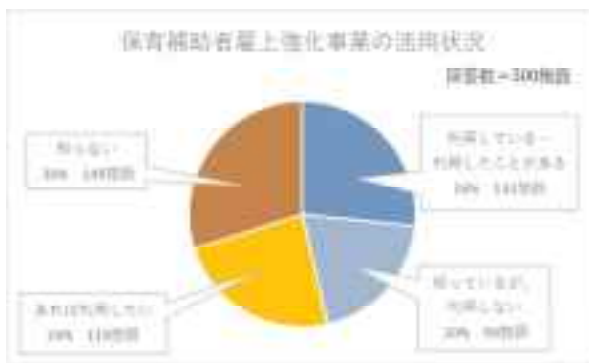
(5) 保育士宿舎借上げ支援事業



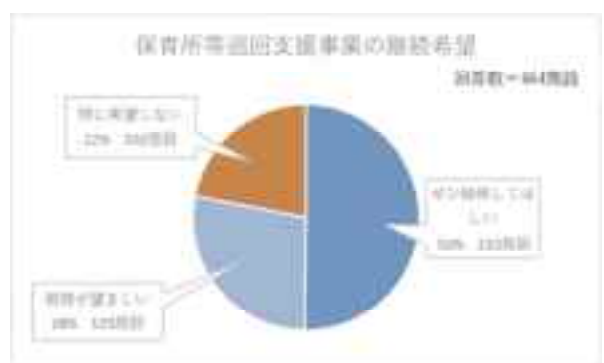
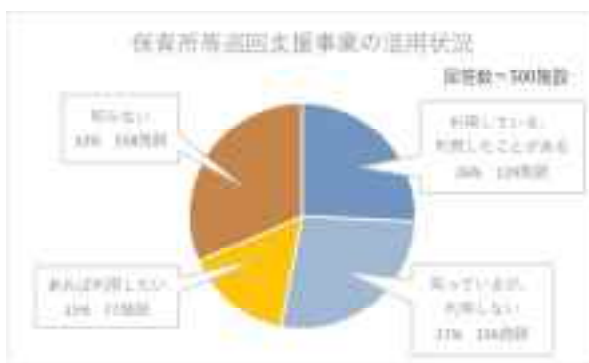
(6) 保育体制強化事業



(7) 保育補助者雇上強化事業



(8) 保育所等巡回支援事業



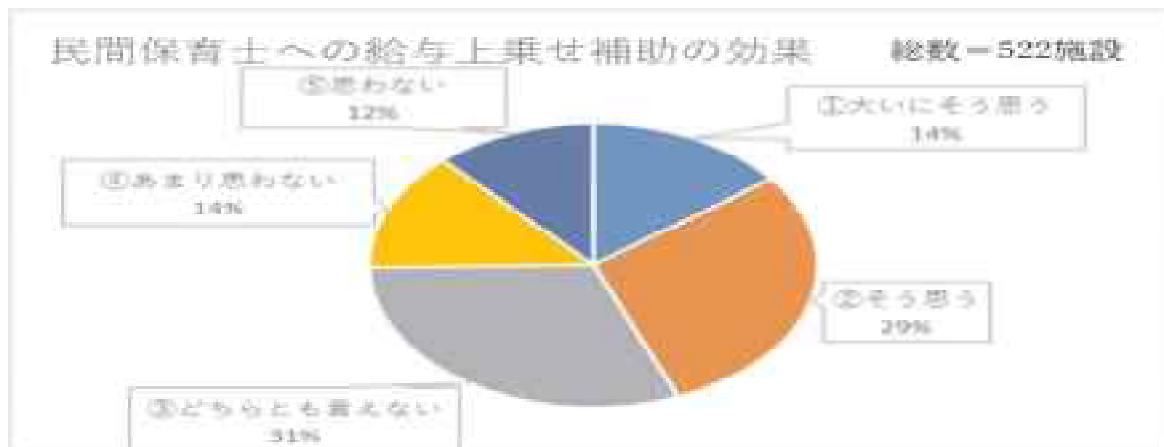
(9)人材交流等支援事業



(10) 保育所等における業務集約化推進事業



【参考】



制度の認知度及び活用度と継続希望について、事業によって大きく異なる状況が見受けられた。

県独自に市町村と連携し実施している処遇改善事業及び配置改善事業については、活用度も継続希望も非常に高いが、他方で、採用時にける処遇改善事業の効果については、「どちらとも言えない」との回答が約3割と多く示されていることも踏まえて、今後の取組を検討していく必要が感じられる。